

1 基本情報								
施設名又はグループ名		指定管理者名及び団体概要						
狭山丘陵グループ		(指定管理者名) 西武・狭山丘陵パートナーズ						
指定期間		(団体の概要) 西武造園株式会社、西武緑化管理株式会社、NPO法人 NPO birth、NPO法人 地域自然情報ネットワーク、一般社団法人 防災教育普及協会						
H28.4.1 ~ R5.3.31 (7年間)								
2 施設名		3 収支(単位:千円)			公園別支出額			
狭山公園 八国山緑地 東大和公園 野山北・六道山公園 中藤公園		項目			金額			
		収入計			624,268	424,925	421,199	
		内訳	指定管理料			624,268	424,925	421,199
			利用料金					
			その他収入					
		支出計			624,268	424,925	421,199	
収支差			0	0	0			
4 管理運営の概要								
<p>西武・狭山丘陵パートナーズでは、これまで培ってきたノウハウやネットワークを活かして、里山が持つポテンシャルを鮮明に引き出し、持続可能な社会に貢献する公園づくりを一層推進する。さらに、オリンピック・パラリンピック開催の機を活かして、東京の宝物である狭山丘陵から「SATOYAMA」を国内外に広く発信し、レガシーとして長く受け継がれる取り組みに発展させていく。第3期最終年である令和4年度は、コロナ禍が収束に向かう中、徐々にイベントやボランティア活動を通常のレベルに戻し、都県境を超えた広域連携、環境教育、自然環境保全に取り組んだ。</p>								
5 管理状況(維持管理)								
<p>【1.適切な維持管理を行うための取り組み】 スタッフによる日常巡回、専門家による定期施設点検、樹木一斉点検、ナラ枯れの確認を全公園で実施。不具合や危険箇所の早期発見に努め、安全性の確保を行うと共に、計画的な補修・修繕・改修で、予防保全を進めた。昨年に続き、ナラ枯れ被害木をマーキング、GISで位置情報を記録。来園者や近隣の安全を第一に考えた伐採計画を作成し、伐採を実施。利用者に向けて普及啓発チラシの配布・掲示を行い伐採への理解を得ながら進めた。公園ボランティアや公園管理運営協議会メンバーと今後の樹林地再生に向けて勉強会や現地見学を実施し意見交換を行った。狭山公園では水道局と調整し多摩湖の補強工事で抜粋されている中に入り、調査を実施し、希少植物を確認し、狭山公園内に株を移植して生育地を創出した。</p> <p>【2.事故、自然災害や感染症等を未然に防ぐための安全対策、発生時の対応】 新型コロナウイルス感染症対策として、昨年に続き基本的対策を掲示や園内放送、HPで周知状況を見ながら消毒液の設置や機の配置などを考慮し展示エリアなど開放を進めた。8月のナラ枯れ伐採作業時に伐採木による委託業者の負傷事故が発生。西部公園緑地事務所へ状況を随時連絡し、緊急再発防止会議を実施した上で作業を再開。その後事故なく作業を終えることができた。八国山緑地では、隣接住民からの土砂対策要望に丁寧に打合せを重ね、防災・減災対策を実施した。</p> <p>【3.要望やオリンピック・パラリンピック後を見据えた施設補修、施設改良への取り組み】 東大和公園では、老朽化した給水設備の改修を行い、施設長寿命化を図った。野山北・六道山公園では木橋やベンチなど木製施設を計画的に改修。長寿命化のため基礎・桁材など部材の検討、強度対策など工夫しながら施工。</p>								
6 利用者アンケート結果								
実施方法：回収、対面、WEB								
施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員への対応			
狭山公園	4.7	4.5	4.5	4.4	4.6			
八国山緑地	4.4	4.2	4.3	4.3	4.5			
東大和公園	4.6	4.3	4.3	4.3	4.6			
野山北・六道山公園	4.8	4.5	4.7	4.6	4.7			
中藤公園	4.0	3.8	4.2	3.9	4.7			
7 入園者数の状況(単位:人)								
施設名	当該年度	分析						
狭山公園	612,989	コロナ禍での公園特需が落ち着いたことや、整備工事により駐車場を閉鎖したことが影響したと考えられる						
八国山緑地	292,040	コロナ禍での公園特需が落ち着いたこと、天候によるイベント中止の影響が考えられる						
東大和公園	42,473	コロナ禍での公園特需が落ち着いたことが考えられる。一方で新設保育園の定期利用により施設利用数が増加						
野山北・六道山公園	183,017	コロナ禍での公園特需が落ち着いたこと、整備工事により駐車場を閉鎖したことが影響したと考えられる						
中藤公園	214	コロナ禍での公園特需が落ち着いたことが考えられる						
合計	1,130,733							



都立狭山公園

所在地：東村山市、東大和市
開園面積：23.5ha

テーマ 狭山丘陵の玄関口 ～人と出会う、自然と出会う、はじめの一步～

＜目標と取組方針(狭山公園マネジメントプランより)＞

- ・地震災害時への対応のため、防災機能を強化・充実した都立公園
- ・多様な生物の貴重な生息・生育空間となる都立公園
- ・子どもたちの健やかな成長の場となる都立公園
- ・都民や企業等とのパートナーシップを推進する都立公園

1 新たな公園活用を、地域のチカラで実現する取組み

3-②No.4,11
31,79,82,92



これまで培ってきた自治体や団体との連携を深めつつ、企業や学校などとの新たな連携もスタート。
40以上の組織と事業を展開し、狭山丘陵の魅力をパートナーシップの力で発信。都立公園を舞台に地域の方々が活躍！

楽

たのしむらやま おとのわ！ New!!

■狭山公園の自然と音を楽しむライブ＆ワークショップイベント。地元の中学校吹奏楽部やミュージシャンが大活躍！自治体、地域の方と共に東村山の新たな魅力を発信！

- with -
さとやまフェスティバル
実行委員会、
東村山市など全12組織



音楽関係ブースやライブなど、11コンテンツを展開
地元中学校の吹奏楽部はコロナ禍で出演する舞台が激減したため、演奏披露に涙を流し喜ぶ保護者も

観

狭山丘陵フェア SAYAMA HILLS DAY

& デジタルスタンプラリー New!!

■狭山丘陵の魅力を紹介する『SAYAMA HILLS DAY』を開催。また狭山丘陵の7か所を巡るデジタルスタンプラリーも初めて開催し、DX活用でマイクロツーリズムを推進！

- with -
狭山丘陵フェア実行委員会
関係6自治体など全26組織



地域を代表するイベントとして定着。来場者数2669名！満足度96%！

デジタルスタンプラリー特設サイトの総アクセスは276名

学

宅部池のプランクトン観察会 New!!

■専門技術を持つ企業と、屋内スペースを持つ東村山市(公民館)と連携。プランクトンから狭山丘陵の生物多様性を学ぶ機会を提供！

- with -
東村山市、
リオン(株)



宅部池でプランクトンを採取し、公民館にて特殊な顕微鏡で観察

健

大人のパークヨガ New!!

■近隣施設「掬水亭」と、沿線のフィットネス事業を運営する西武レクリエーションと初連携。鉄道媒体の広報力を活かし、新たな利用者層獲得！

- with -
掬水亭
西武レクリエーション(株)



ヘッドホン着用のサイレントフィットネスで、屋外でも快適！

育

子育て支援施設との連携 New!!

■東村山市内で子育てに優しい施設を市民が選ぶアンケート調査で、令和3年度に狭山公園が総合1位を受賞。より子育て支援を強化するため、調査主催団体と共催で0歳からの外遊びイベントを2回開催。子育て支援強化により令和4年度も2年連続で総合1位を受賞！

- with -
東村山市子育て
総合支援センター



レンジャーが0歳からの自然の楽しみ方を紹介

↑子育てにやさしい大賞授賞式
←総合1位の賞状とステッカー

2 子どもたちが活躍する都立公園づくり 自然を守る子ども達を、狭山公園から続々輩出！

3-②
No.30,36,96



第4期生 キッズレンジャーの活躍

来場者1,000人に向け
自然・保全活動を解説

キッズレンジャー NHK シチズンラボHPに 修了生も活躍

NHKが運営する市民参加型科学研究Webサイト

■自然を守り伝える子ども達を都立公園から輩出する
「狭山公園キッズレンジャー」の年間プログラムを実施。16組
51名の親子が登録。狭山丘陵フェアではキッズレンジャーが
自ら企画しブースを出展し、約1,000名に向け自然解説。

■キッズレンジャー1期生が、約2年半に渡り毎月
タヌキのフンの内容物を自主調査。タヌキの行動や
環境課題をまとめた報告書が、NHK運営サイトで4週
連続で紹介された。



毎月1回、年間10回の自然を守り伝える活動を体験(左上:調査 左下:保全体験 中央:右:自然解説の様子)

都心の小学生が活躍

世田谷区の小学校4年生の
絶滅危惧種を守り育む活用 New!!

■絶滅危惧種をテーマに学習をしたいと担当教員から相談を受け、
身近な絶滅危惧種や環境課題についてパークレンジャーがオン
ラインで解説。その後狭山公園にて、全4回(笹刈り、展示作成、
苗木育成、外来種捕獲)の環境保全活動を実施。



狭山丘陵の絶滅危惧種や環境課題に関する動画を作成・配信



笹刈り(林床植物保全)



公園の生きもの&保全活動紹介展示作成



コナラの苗木育成(ナラ枯れ対策)

3 管理区分の枠を越え、丘陵一体となった環境保全を推進

3-②
No.41,37



多摩湖の希少植物を保全 狭山公園に希少植物の生育地創出 New!!

東村山市・東大和市・武蔵村山市 3市合同・アライグマ捕獲事業と連携 New!!

■補強工事のため排水されている多摩湖に入り、露出した
湖底から発芽している植物の調査を水道局に提案し実現。
都内でも生育地が限られている希少植物を多数確認。
■復水すると湖底の植物が消失してしまうため、
狭山公園内に株を移植するなど安定的な生育地を創出。

■希少な水辺生物を捕食するなど生態系に深刻な影響を
与えるアライグマの捕獲を、自治体と連携して実施。
■他公園での捕獲経験を活かし、成体確認情報の提供や
罠設置場所の提案、捕獲成果確認などに協力。
2個体の捕獲に成功した。



排水は貯水池完成後初。絶滅危惧種13種を確認し、特に希少な植物の株や種子を採取した



園内での確認記録を基に罠設置場所を提案。2個体の捕獲に成功

4 施設の長寿命化・景観を配慮した維持管理

3-③
No.5,8



■老朽化で塗装が剥がれた橋の塗装を実施。
耐久性に優れ環境にも優しい塗料を採用。

■本部、現場スタッフによるランドスケープチェックを実施。
眺望について修景を協議し、新たなビュースポットを選定、創出した。



塗装前(左)後(右)の様子。他の園内橋と併せ色を黒色系に変更



枯損木伐採や笹刈りにより、多摩湖を望むビュースポットを創出

【来園者の声】
「こんな絶景の場所が
あったとは知らなかった！」
「とっても良い眺め！」



都立八国山緑地

所在地：東村山市
開園面積：37.1ha

テーマ 歴史・人・自然をつなげる里の道 ～古を思い、次世代へ伝える～

- ＜目標と取組方針(八国山緑地マネジメントプラン)より＞
- ・地震災害時への対応のため、防災機能を強化・充実した都立公園
 - ・多様な生物の貴重な生息・生育空間となる都立公園
 - ・子どもたちの健やかな成長の場となる都立公園

1 地域のチカラで、貴重な水辺環境を守る取組み

3-②No.5,6,36,38
3-③ No.47,48

ふたつ池の課題 生物多様性低下

- ① 暗い環境に(水辺植物が消失)
- ② 土砂堆積(陸地化)
- ③ 外来種増加(在来種を捕食)

令和3年度までの取組み

- ① 樹木伐採(明るい環境に)
- ② 土砂撤去(水位回復)
- ③ 外来種捕獲(在来種生存率UP)

令和4年度取組み

- ① 協働による笹刈り
- ② 生物多様性を高める湿地帯創出
- ③ 捕獲した外来種の堆肥化

①協働による笹刈り

■気軽に参加することができる『ちよこっとボランティア』を年間2回開催。小中学生5名を含む17名参加し、内2名が公園ボランティアに登録！

■八国山に隣接する北山小学校の生徒(5,6年生)による環境学習、保全体験を年間7回実施(連携4年目)。ふたつ池付近の笹刈りも行い、地元小学生と共に都立公園の自然を守り育む仕組みとして定着！



『ちよこっとボランティア』で笹刈り体験



北山小学校60名による笹刈り

地域の方々の力で明るい環境に！

②生物多様性を高める湿地帯創出 New!!

■水辺植物の発芽を促進するため、池の縁に湿地帯を創出。トンボなど湿地帯を利用する生きものも誘致し、生物多様性向上を目指す。

■湿地帯には、希少植物の種子を含む底泥を北山小学校生徒と共に撒き戻した。



新設した浅瀬用の木枠



地元小学生の手で底泥の撒き戻し

翌春の希少種発芽に期待！

③捕獲した外来種の堆肥化

■令和3年度に、水辺植物を食べるため捕獲しているアメリカザリガニの堆肥化に成功。今年度はアメリカザリガニ1,435匹に加えアカミガメ、ウシガエルの堆肥化にも成功し、狭山公園の花壇にて導入を開始した。



捕獲した外来種



外来種を用いた堆肥



花壇の肥料として活用開始

2 オオタカの子育てを支援・3年ぶりに繁殖成功！

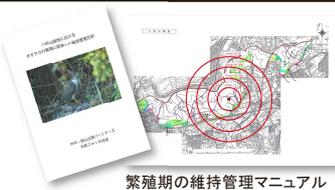
3-②No.37,52
3-③No.7,42,59

維持管理作業・観察マナー普及啓発

■オオタカの繁殖期、托卵期、採餌期など状況に応じた維持管理マニュアルを作成、実践。特に注意する時期は巣から半径500m区間の機械作業を中止し作業日を見合わせるなど配慮。

■パークレンジャーの巡回を強化し、オオタカを追い回す、園路を外れ巣に近づくなどの悪質な行為には指導。

■営業に利用されるアカマツを保護(樹幹注入の実施など)



繁殖期の維持管理マニュアル



毎年利用するアカマツが枯れないよう樹幹注入



八国山で3年ぶりに繁殖成功！

営業したオオタカ(成鳥)と幼鳥

3 日常生活に里山を！ 資源活用や楽しみ方を提案

3-②
No.33,46,63,93



木育 × ナラ枯れ資源の活用

- 里山資源を活用したクラフトイベントを開催。
- 自然を暮らしに取り入れる方法の提案と共にナラ枯れ発生材を活用し、環境課題も普及啓発。



ナラ枯れ発生材を用いた「スプーン作りワークショップ」

野鳥観察を楽しむ方法とマナーの普及啓発

- 『野鳥観察』をテーマにパークンジャーのガイドウォークを開催。身近な都立公園で野鳥観察を楽しむ方法を紹介しながら、観察時のマナー(餌付け、巣に近づかないなど)を紹介。
- 野鳥観察マナーアップキャンペーンを全公園で実施。八国山では例年複数の餌付け被害が発生しているが、長年継続した成果もあり、全公園を通して**悪質な餌付け行為0件達成!**(平成29年度のキャンペーン開始以来初)



野鳥観察をテーマにガイドウォークを開催 19名が参加



野鳥観察マナーアップキャンペーンパンフレット

4 誰もが安心して利用できる公園に丘陵地公園のインクルーシブを目指す維持管理

3-③ No.31,33



要望者の声を現場に反映

- 要望①: 視覚障害をお持ちの方より、進行方向を把握するためのガイドとなる柵が広場にあると良い。
- イメージを正確に把握するため、要望者、東京都と共に3者で現場を確認。要望を基に図面を作成し、要望者と共に再度現場で説明。合意形成を得た後に施工実施。
- 要望者から「良いものを作ってもらえた。他の視覚障害者も利用している」との感謝を受けた。
- 要望②: 雨が降った後の園路が滑りやすいので対策を
- ぬかるみやすい園路に碎石を敷設。散策時の安全性が向上。



杭の間隔、ロープの高さなども細かく打合せし、視覚障害者のニーズを反映させた



ぬかるみやすい園路

碎石敷設後の様子

5 地域の安心・安全を守る 減災対策

3-③
No.1,5,26,31,33

隣接住宅への土砂災害予防

- 隣接する住宅への土砂流出を予防するため、住民との現地確認を重ねながら民地境界の公園斜面地の土留めを延伸。

土砂災害警戒区域のモニタリング調査

- 土砂災害警戒区域に指定されているエリアの土留め、石垣の安全点検を4年間に渡り週1回継続実施。
- 毎月近隣住宅に調査結果を共有したことで、住民からの信頼を獲得し、管理運営への理解、協力を得た。



作業中の様子

設置完了後の様子



石垣点検の様子

調査報告書



都立東大和公園

所在地：東大和市
開園面積：18.6ha

テーマ 雑木林博物館 ～雑木林のすばらしさを感じ、学び、育む～

- <目標と取組方針(東大和公園マネジメントプラン)より>
- ・多様な生物の貴重な生息・生育空間となる都立公園
 - ・都民や企業等とのパートナーシップを推進する都立公園

1 子どもたちの声が響く丘陵地公園づくり

3-2No.32



セルフ自然遊び『雑木林ようちえん』開催

- 「イベントを増やしてほしい」との子育て世代からの声に応え、未就学児から楽しむことができる自然遊びイベントを開催。
- 感染症対策のため、家族ごとに楽しむことができる自然遊びコーナーを4か所設置。
- 都民協働で手入れをしている雑木林「森のあそび場」も活用。
- 午後からはパークレンジャーによるガイドウォークも開催。「探す」、「作る」など子どもでも楽しめる内容に。



親子**38名**が参加!



各コーナーに設置した看板

【参加者の声】

- ・子どもたちが本当に楽しそうだった
- ・森のようせい探しが楽しくて2回もやった!
- ・定期開催してほしい!もっと参加したい! など

2 協働による環境保全で絶滅危惧種が復活!

3-3No.5,6,38,39



協働による保全活動の成果が続々!

- 地域住民や公園ボランティアと共に作成した『森のあそび場管理計画(平成29年度作成)』に基づき、協働による雑木林や湿地の管理を継続実施。その結果、希少植物の株数が増加した他、消失の懸念があった湿生植物のミゾコウジュ(絶滅危惧Ⅱ類)が復活。
- 東大和公園では初確認のセンブリ(絶滅危惧ⅠB類)が開花。協働の力で生物多様性向上に寄与することができた。



左・右上: 雑木林管理作業の様子(笹刈り) 右下: 湿地の管理作業の様子(外来植物抜き取りなど)



リンドウ
絶滅危惧Ⅱ類



クチナシグサ
絶滅危惧Ⅱ類



センブリNew!!
絶滅危惧ⅠB類

特に希少!



ミゾコウジュ
絶滅危惧Ⅱ類

3

東大和公園のシンボル・アカマツ林再生の取組み

3-③No.44



アカマツに関する課題

- ① 松枯れ病による成木の枯死
- ② 日照不足による幼木の成長不良、実生の発芽障害

令和3年度までの取組み

- ① アカマツ保全計画作成
- ② 地域住民との合意形成
- ③ アカマツ広場での伐採、地掻き
- ④ 作業後の下草刈り、追跡調査

令和4年度の取組み

- ① アカマツ広場の下草刈り、追跡調査
- ② ハルゼミの丘の伐採、地掻き
- ③ 狭山丘陵関係団体とアカマツ再生に関する情報交換

① アカマツ広場での下草刈り、追跡調査

■草刈り時に実生をマーキングし、手刈りにより丁寧に管理。60本の実生が順調に成長。アカマツ再生の成果を確認。



平成31年度に整備されたアカマツ広場にて、追跡調査を実施。健全な幼木多数確認

② ハルゼミの丘の伐採、地掻き New!!

■アカマツ再生計画(平成31年度作成)に基づき、アカマツの成木が多数残るハルゼミの丘にて取組みを開始。今年度はアカマツの周辺の高木23本を伐採。またこれまでの知見を活かし、幼木の発芽を促すための地掻きも実施。下草刈り頻度の軽減も期待される。



ハルゼミの丘でアカマツ周辺の樹木伐採と地掻きを実施

③ 関係団体とアカマツ再生に関する情報交換

■狭山丘陵関係団体が集まり環境保全について協議する『狭山丘陵広域連絡会』を開催。アカマツ再生に関する情報交換を実施。丘陵全体でアカマツ再生に取り組む体制を確立することができた。

4

老朽化したインフラ設備の改修&長寿命化推進

3-③No.5.33.40



長年の課題・漏水対策(狭山公園での漏水改善策を東大和公園でも活用)

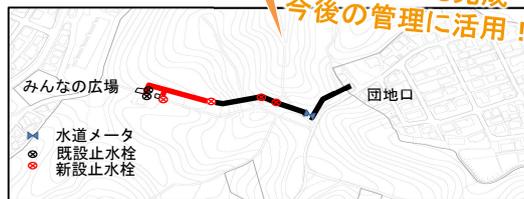
- 漏水箇所特定のため、約200m間でバルブを新設。切り分けが可能に→今後漏水時の調査労力が軽減!
- 埋設された配管を凍結や衝撃に強い素材(HIVP管)に交換→漏水予防、長寿命化推進!



漏水箇所

配管交換の様子

新設したバルブ



配管図面も完成
今後の管理に活用!

新たに作成した配管図面

5

地域の声に応える管理を継続
利用者アンケート 過去最高評価!

3-②No.47

3-③No.5.7.33



全ての意見要望に対応・未対応0件

- 「園内の案内を分かりやすくしてほしい」、「坂道も歩きやすくしてほしい」、「道路からの見通しを良くしてほしい」などの声を受け、優先順位をつけ計画的に対応。
- 利用者アンケートの結果、3期(17年間)の中で最高値となる『総合満足度4.6』を獲得!
その他「四季の花や自然」、「イベント・展示」の全3項目で過去最高評価を獲得!



案内解説板をリニューアル



木製階段を新設

見通しが
良くなって安心!



見通し確保のための植栽管理



都立野山北・六道山公園

所在地：武蔵村山市、
瑞穂町
開園面積：203.3ha

テーマ なつかしいようで未来につながる公園

～豊かな自然を活かし、みんなで学び、育てる～

<目標と取組方針(野山北・六道山公園マネジメントプラン)より>

- ・多様な生物の貴重な生息・生育空間となる都立公園
- ・子どもたちの健やかな成長の場となる都立公園
- ・都民や企業等とのパートナーシップを推進する都立公園

1 協働による里山の風景づくりを本格的に再開

3-②No.6,7,8



里山の自然や文化を守る、15種のボランティア活動が本格的に再開。学校連携などを含めると年間約4,200名が活動し、令和3年度の1.5倍以上に！ またコロナ禍で減少したボランティア登録者数を回復させるため、オンラインで気軽に登録・参加できる活動を拡充。その結果、登録者数が327名に増加！

※令和3年度は278名

Topic.1 田んぼ活動 完全復活

- コロナ禍で縮小していた田んぼ活動を、通常規模に戻し実施。年間約2,000名が参加し、里の賑わいと風景が復活！



田んぼ作業後の集合写真

Topic.2 さとやま湿地の保全活動

- 令和3年に東京都による整備が完了した里山民家前の湿地で、協働による保全作業を本格始動。公園ボランティア、公園スタッフ(自然環境保全部、維持管理部)が連携し、植物調査や保全作業を実施。調査では東京都レッドリスト記載の希少種26種を確認！



協働による湿地植物調査

協働による湿地保全活動

Topic.3 地域の文化を守る活動

- 地域と連携したお祭りを再開し、岸十松囃子保存会の伝統芸能を3年ぶりに実施。また地域産業の狭山茶づくりイベントも再開。



里山祭り・岸十松囃子

里山サポーター・学生団体が新規参加

Topic.4 ボランティア活動×DX推進

- Webから簡単に登録することができる「里山サポーター」を継続。公園ボランティアがPR動画を作成し、新規登録募集に活用。学生団体を含む全79名が登録し、新たな層の仲間を獲得！
- オンライン併用でボランティアミーティングを開催。参加方法の選択肢を増やすことで、参加率が向上！

2 自然を守る仲間を増やす！ レンジャープログラム

3-②
No.30,31,33



Step.1 里山の自然を楽しむ！

- 未就学から高齢者まで、世代に併せた自然体験プログラムを年間19回開催。参加者150名以上！



Step.1 里山の自然を楽しむ！

Step.2 里山の自然を学ぶ！

- 稲作の1年を体験する『じっくり田んぼコース』や、夏・冬の終日自然体験『里山キッズ探検隊』を再開。



Step.2 自然を学ぶ！

Step.3 里山の自然を守る活動に参加！

- 楽しみ、学ぶプログラムの参加者からも、公園ボランティアに新規登録！



Step.3 里山の自然を守る！

福祉施設と連携し、
高齢者向けガイドも開催！

3

安全×未来の里山を見据えたナラ枯れ対策

3-②No.5.41
3-③No.70



ALL parks

安全第一×生物多様性を考慮した伐採

- 全公園の園路、外周の被害状況の調査を実施。来園者や近隣の安全を第一に考えた伐採計画を作成し、被害木677本を伐採。
- ナラ枯れで里山環境が劇的に変化するため、次世代の雑木林管理を計画的に進めるための担当者会議を実施。また管理運営協議会委員を対象とした現地見学会を開催し、生物多様性向上に期待できるエリアで更新伐採を開始。



ナラ枯れ被害木位置図



生物多様性向上のための担当者会議 New!!

公園ボランティアと考える里山将来像 New!!

- 今後の協働による樹林地再生に向け、公園ボランティアを対象としたナラ枯れ勉強会を開催。また、伐採で大きく環境が変わったボランティア活動エリアにて意見交換を目的とした現地見学会も実施。



ナラ枯れ学習会(左)と現地見学会(右)



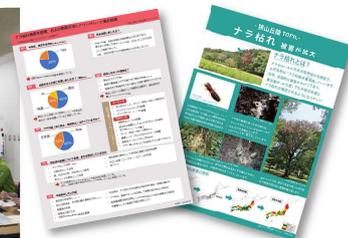
都民協働、環境保全、維持管理の3部署が連携

狭山丘陵一丸となったナラ枯れ対策

- 都県境を超えた組織と情報交換を行う『狭山丘陵広域連絡会』を開催。また参加団体及び関係自治体を対象に今年度の被害や対応の状況、課題についてを訊ねるアンケート調査を実施し結果を共有。ナラ枯れの仕組みや被害状況、公園の方針などを記した普及啓発チラシも配布。



狭山丘陵広域連絡会



自治体等アンケート集計表・普及啓発チラシ

4

貴重な自然を守る新たな取り組み

3-②No.40
3-③No.49



トウキョウサンショウウオ保全の新たな取り組み New!!

- 本種は長年の保全活動により個体数が回復していたが、アライグマ(外来生物)の捕食により再び減少。そこで、新たな取り組みとして直営によるアライグマの捕獲を実施。これまで蓄積したデータから高利用域を選考し効率的に罠を設置。
- 捕獲罠の近くに、写真をメール送信することができる自動撮影カメラを設置。日々の捕獲状況を確認する労力が大幅に減少。DX推進により作業の効率化が実現。9ヵ月間で計14個体の捕獲に成功した。



自動撮影カメラが撮影したアライグマ(左)、捕獲されたアライグマ(右)



都立公園の環境保全事例を発信

- 狭山丘陵の都立公園で行ってきた自然環境保全活動の事例紹介講座を開催。(会場: 神代植物公園) 東京都内で自然環境保全に携わる方々を含む計24名が参加。新たな自然環境保全の手法や成果、課題などを紹介することで、東京都全体の自然環境保全に貢献!



具体的な事例、参考になった!



自然環境保全部が事例を紹介

5

利用者の安全と、自然環境・景観に配慮した維持管理

3-③No.5.7



里山民家周辺の水辺設備改修

- 事故を未然に防ぐため、老朽化した木橋を改修。
 - ・湿気に強い部材を選定したことで、**長寿命化を推進**。
 - ・新たに地覆を設置し、転落を予防。
 - ・土留めを設置し、土砂堆積を予防。**発生材を活用し、資源循環を推進**。
- レンタルヤギによる斜面の除草を試行実施。繁茂するクズを良く食べ、特に**法面の除草で大活躍**。里山らしい風景作りにも貢献!



改修した木橋(上: before 下: after)



ヤギによる除草試行実施



都立中藤公園

所在地：武蔵村山市
開園面積：4.7ha

テーマ 狭山丘陵の緑の連続性を確保しつつ
里山の歴史を引き継いでいく場

- <目標と取組方針(中藤公園マネジメントプランより)>
- ・多様な生物の貴重な生息・生育空間となる都立公園
 - ・都民や企業等とのパートナーシップを推進する都立公園

1 中藤公園初の協働事業！ 企業と連携した森づくり

3-③No.44



多摩地域企業のCSR事業受入れ

- 多摩地域の企業である太陽誘電モバイルテクノロジー(株)のCSR活動(社員、家族35名)を受入れ実施。
- ナラ枯れでコナラが減少する中、コナラ林再生に向けて実生掘り取りを行った。実生苗は90本確保し、数年育てた後にコナラ林再生計画で選考したエリアに移植する予定。
- 自然環境保全部、都民協働部、レンジャー部、維持管理部が連携し、企画、調整、備品準備、当日進行などそれぞれのスキルを活かし対応。
- 当公園初の都民協働活動としての実績と、足掛かりができた。



協働による森づくりの、記念すべき第1回目が実現！



自然環境保全部より作業目的を説明



ポット苗に入れるチップはナラ枯れ処理の発生材を活用



子ども達も大活躍



採取した実生苗 野山北・六道山公園管理所にて数年間育てる

2 地域のポテンシャルを活かしたレンジャーガイドウォーク

3-②No.33

自然と歴史をテーマに公園や地域の魅力をPR

- 狭山丘陵の自然に加え、歴史文化のポテンシャルも高い中藤公園にて3年ぶりのガイドウォークを開催。
- 縄文～弥生時代(遺跡から見る狭山丘陵と人の暮らし)、江戸(中藤地区での農耕や暮らし)、昭和(貯水池建設、軽便鉄道、戦時中の様子)など、各時代の情勢と中藤地域の暮らしを紹介。
- 雑木林や草地など、公園の環境ごとに見られる季節の草花や野鳥を観察。開園面積が小さいながらも、多様な豊かな自然の魅力を紹介。
- 狭山丘陵ならではの歴史を学びつつ、希少な里山環境の自然を楽しむ内容に、参加者アンケートでは**満足度100%を獲得!**



貯水池建設で設置された軽便鉄道用トンネルにて歴史解説



季節の植物を紹介

3

生物多様性ポテンシャル分析・哺乳類の生息状況調査

3-②No.37

中藤公園では初となる、哺乳類調査を実施 **New!!**

- 自動撮影カメラを用いた哺乳類の生息状況調査を実施。中型哺乳類の巣穴や糞の位置情報を基にカメラの設置位置を検討した。その結果、**絶滅危惧種3種を含む全4種の在来種**（中型哺乳類）の撮影に成功。
- 環境の変化により中藤公園での生息が途絶える可能性もある。今回の調査結果を樹林地整備等の計画時に反映させることで、今後も持続的に中型哺乳類が生息できる環境を維持する。



アカギツネ **New!!**
絶滅危惧 I B類

特に
希少!



アナグマ **New!!**
準絶滅危惧



ニホンノウサギ **New!!**
絶滅危惧 II 類



ホンドタヌキ

4

公園アクセスをわかりやすく！ 他施設と連携した案内強化

3-②No.49,67

- 「公園への行き方がわかりにくい」との声に応えるため、水道局に協力を仰ぎ公園名と方向を記した看板を設置。 **New!!**
- 多摩観光情報センターにて、中藤公園や周辺の見どころを巡るウォーキングマップを配布。



水道局用地の車止めに案内看板を設置



多摩観光情報センターにて、中藤公園ウォーキングマップや狭山丘陵フリーペーパーを配布



5

パークスキャンで課題を抽出・維持管理に反映

3-③No.17

本部・現場スタッフによるパークスキャン

- 本部や公園スタッフが集まり、公園の改善箇所をチェックする『パークスキャン』を実施。日ごろ巡回を担当しているレンジャーや維持管理部に加え、他部署のスタッフの目で現場をチェックすることで、新たな視点での課題を抽出することができた。

【抽出課題①】土舗装園路に苔が生え、滑りやすくなっている

- 環境に優しい方法で苔を除去することができないかを検討。重曹を用いて約90m分の苔の除去を試行実施し、効果を確認。苔が生えている全園路にて実施予定。

【抽出課題②】掲示板周辺がうっそうとしている

- 笹を刈りにより掲示板を目立たせ、見通しも確保。キンランなど絶滅危惧種も発芽するエリアであるため、希少種保全にも寄与。



苔が生えた園路を重曹を用いて清掃 **New!!**



掲示板周辺の笹刈り